

宮の森大倉山地区 まちづくりビジョン



2024年（令和6年）3月

目 次

1. はじめに	01
2. 宮の森大倉山地区について	02
3. 宮の森大倉山地区まちづくりビジョンとは	04
4. 宮の森大倉山地区のまちづくりの5つの方針	07
5. 5つの方針の実現に向けて	
(1) 自然とつながるまち	08
(2) ひとがつながるまち	09
(3) 未来につながるまち	10
(4) コミュニティの場でつながるまち	11
(5) 情報とデジタルでつながるまち	12
6. 今後の展開	13

1 はじめに

つながりのあるまちづくり

近年、地域活動を行う町内会をはじめとした諸団体から聞こえてくる担い手不足や役員の高齢化がコロナ禍において一気に加速しました。

コロナ禍の後、人々の生活は平常を取り戻しつつあります。地域活動についてもその多くが再開されてきましたが、町内会や地域の諸団体の人材不足はこれまで以上に深刻な状況に直面しています。

そこで今回、宮の森大倉山地区における地域活動の諸問題について、町内会や諸団体で活動する方だけでなく、子育て世代の方や現役世代の方を交えて、様々な視点からの意見交換を行いました。

そして、地域の魅力や課題を洗い出しながら、ここ宮の森大倉山地区のまちづくりの活動指針となる地域まちづくりビジョンの策定に取り組んでまいりました。

連合町内会役員での意見交換会やワークショップでの話し合いを進めていく中では、スムーズな事業再開を果たす団体がある一方で、役員の交代や辞職に伴い、事業継承がうまくできないといった地域の現状もお聞きしました。

各町内会や諸団体において、このような多くのご苦労があることを前提としつつ、多様な立場の方々の目線や現役世代や子育て世代など各世代の声を踏まえながら、これからのまちづくり活動のあり方についての検討を広く進めてきました。

そして、ここ宮の森大倉山地区の自然・ひと・子育て・コミュニティ・情報をキーワードにして、『つながるまち・宮の森大倉山』をメインテーマにすることとしました。

これからは、このビジョンを宮の森大倉山地区のまちづくりの基本に据えて取り組みを進めていくこととなります。

取り組みを進めていくには、連合町内会だけで企画立案していくのではなく、社会福祉協議会や青少年育成委員会、民生児童委員会協議会、交通安全実践会、交通安全母の会、交通安全指導員会、子ども会、消防団など関係諸団体が連携を図り協議を重ねていくことが必要不可欠となります。

これからも宮の森大倉山地区の魅力あるまちづくりについて、地域の皆様方のさらなるご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

宮の森大倉山連合町内会会長
松田 健一郎

2 宮の森大倉山地区について

(1) 歴史

宮の森大倉山地区の歴史は、1874年（明治4年）に山鼻から本願寺の開拓農家12戸が移り住んだことに始まります。

当初、この地域は琴似村十二軒と呼ばれていました。

1928年（昭和3年）には秩父宮雍仁親王が訪れ、翌1929年（昭和4年）には、高松宮宣仁親王も訪れ、三角山や荒井山でスキーを楽しんだことから、1930年（昭和5年）には「宮様スキー大会」が開催され、それ以来、この地域は「宮ノ森」として知られるようになりました。

1943年（昭和18年）5月には、地名が正式に琴似町宮ノ森へと改称されました。

また、大倉山の名前は、ジャンプ台を寄進した大倉男爵の名前に由来します。

戦前、宮の森大倉山地区はのどかな農村地帯で、洋ナシやリンゴ、ブドウなど果樹や野菜の栽培が盛んでした。戦後の1955年（昭和30年）、琴似町が札幌市と合併したことにより、地域の農地が徐々に住宅地へと変貌しました。1960年代には土地の区画整理などにより住宅地が広がり、1970年代には、札幌冬季オリンピックを契機にさらに宅地化が進みました。

現在は、都心からほど近い距離にありながら恵まれた自然環境などもあり、札幌を代表する高級住宅街となっています。

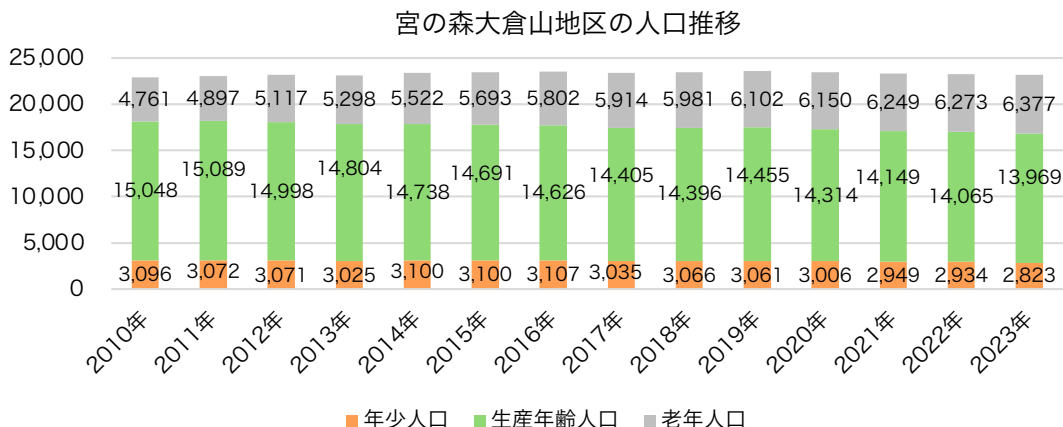


■1916年（大正5年）測図地形図
宮の森大倉山地区は琴似村十二軒と呼ばれており、住宅も少ない農地となっていることがわかります。

(2) 人口

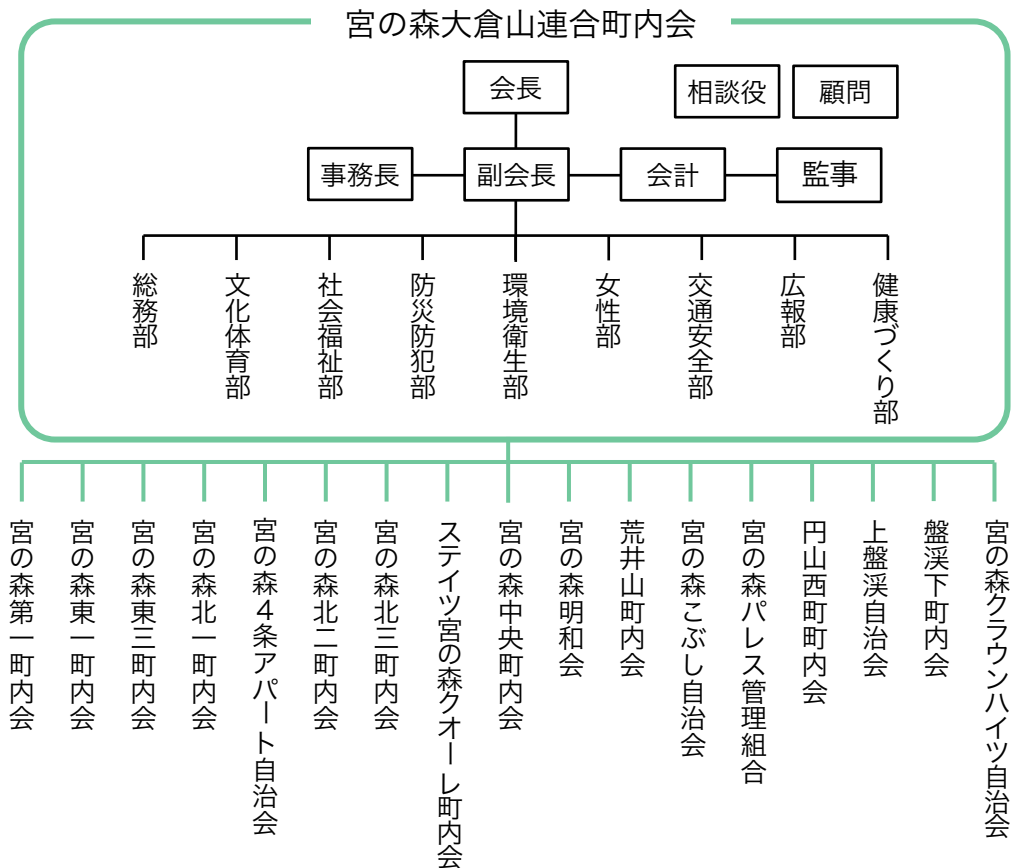
宮の森大倉山地区の人口は、これまで緩やかな増加傾向にありましたが、2020年から減少傾向となっています。令和5年10月1日（住民基本台帳）では、人口23,169人、世帯数11,905世帯、高齢化率27.5%となっています。

札幌市内のまちづくりセンターエリア（連合町内会エリア）ごとの人口と比較すると、宮の森大倉山地区の人口は、ほぼ平均に位置しています。



(3) 宮の森大倉山地区 町内会の組織図

宮の森大倉山連合町内会は、17の単位町内会で構成しています。



●主な活動

- ・ ラジオ体操、七夕まつり、夏・冬の運動会など地域主催のイベントに対する支援
- ・ 交通安全街頭啓発の実施など安全・安心なまちづくりの推進
- ・ 健康教室、ウォーキングなど健康づくりの推進
- ・ 広報誌（連町ニュース）の発行（年2回）
- ・ 女性部では、女性部研修旅行などを実施
- ・ 防犯・防災部では、防災フェスティバル（防災訓練、避難宿泊など）を実施
- ・ やまなみ探検会、親子バスツアーなどを実施 など



■やまなみ探検会



■女性部研修旅行

3 宮の森大倉山地区まちづくりビジョンとは

(1) ビジョン策定の目的

宮の森大倉山地区では、連合町内会や単位町内会が中心となってまちづくり活動を実施してきました。しかし、各町内会や諸団体では役員の高齢化や担い手不足などの課題が顕著になってきています。

そこで、町内会の運営のあり方も含め、今後の宮の森大倉山地区のまちづくりの方向性などを宮の森大倉山地区の住民により検討し、そこで検討された将来イメージやその実現に向けた活動指針を地域まちづくりビジョンとして取りまとめることにしました。今回の宮の森大倉山地区まちづくりビジョンを策定することで、宮の森大倉山地区が一体となったまちづくりが進むことを目指します。

(2) ビジョン策定のプロセス

宮の森大倉山地区まちづくりビジョンの策定にあたっては、地域自らが将来を見据えたまちづくり活動の中長期的に推進することを目的に、住民によるワークショップの開催などにより検討を重ね、その結果を踏まえて策定しました。

勉強会

開催日時：2023年9月12日（火）19:00～20:00
参加者：連合町内会関係者
テーマ：地域の課題、連合町内会と単位町内会の現状

座談会

開催日時：2023年11月25日（土）10:30～12:00
参加者：若い世代、子育て世代
テーマ：宮の森大倉山地区の魅力、将来のイメージ

第1回ワークショップ

開催日時：2023年12月16日（土）10:30～12:00
参加者：連合町内会関係者、若い世代、子育て世代
テーマ：将来のイメージ、まちづくりの方向性

第2回ワークショップ

開催日時：2024年1月20日（土）10:30～12:00
参加者：連合町内会関係者、若い世代、子育て世代
テーマ：まちづくりのテーマ、まちづくりの基本方針



(3) 地域の魅力と課題

座談会やワークショップなどでいただいた地域の魅力と課題を下記の通りまとめました。

地域の魅力

●自然とのつながりがある

- ・ 都心に程近い場所に位置しながらも、円山公園や盤渓、三角山、大倉山などのみどりに囲まれた自然豊かな暮らしがある
- ・ 利便性が高く、自然を身近に感じられる豊かな暮らしがある

●近隣の助け合いなどの人とのつながりがある

- ・ 近隣の助け合いがあり、コミュニケーションが取れている
- ・ 近所のつながりがあることで、高齢者や障がい者の見守りができている

●未来を担う子どもたちを育むつながりがある

- ・ 地域全体で子どもたちを見守り、サポートする環境がある
- ・ 円山動物園やばんけいスキー場など教育関連施設も充実している
- ・ 教育への関心が高く、学びの環境が整っている

地域の課題

●人とのつながりを多世代に広げる

- ・ 若い世代などの地域活動への参画意欲の低下と地域団体の構成員の高齢化
- ・ 地域活動の認知度の低下
- ・ 幅広い世代に向けた地域活動の企画が少なく、活動への参加者が限定的
- ・ 情報発信が地域住民のニーズや想いに合っていない

●つながりの場をつくる

- ・ 住民が気軽に集うことができる憩いの場が必要
- ・ 子どもから高齢者までが世代性別を問わず交流できる場が必要
- ・ 子どもたちが安全に安心して楽しめる場が必要

●デジタル・情報によるつながり

- ・ 従来の発信方法では十分に情報が伝わらないことによるコミュニケーションの低下
- ・ デジタルで情報を受け取れたり、コミュニケーションを取れる仕組みが必要

(4) 将来イメージ

座談会やワークショップなどでいただいた将来イメージを下記の通りまとめました。

将来のイメージ

- 自然とのふれあい
 - ・ 円山公園や盤溪など四季折々の美しい自然を楽しむ暮らしがあるまち
 - ・ 自然豊かな中で子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち
- ひとのつながり
 - ・ 若い世代や現役世代の地域の活動への参加を促進
 - ・ 担い手不足に対応した町内会同士や企業・団体との連携を促進
 - ・ あいさつや出会いの場の創出による世代を超えたつながりづくり
 - ・ サポーター制度など誰もが気軽に地域の活動に参加できる仕組み
- 未来を担う子どもたちを育むつながり
 - ・ 子どもたちが気軽に集まる場からのつながりづくり
 - ・ 元気なシニアの方々など地域で子育てをサポートする体制の構築
- つながりをつくるコミュニティ
 - ・ 地域の人々が交流できるコミュニティの場づくり
 - ・ 町内会館などを活かしたコミュニティの場づくり
- 情報でつながる
 - ・ SNSなどを活用して情報を知ることができる仕組み
 - ・ スマホの使い方を教え合うことでの多世代交流の促進



つながるまち・宮の森大倉山



ワークショップなどで出された意見を元に、今後の宮の森大倉山地区のまちづくり活動を行ううえでのテーマを設定しました。

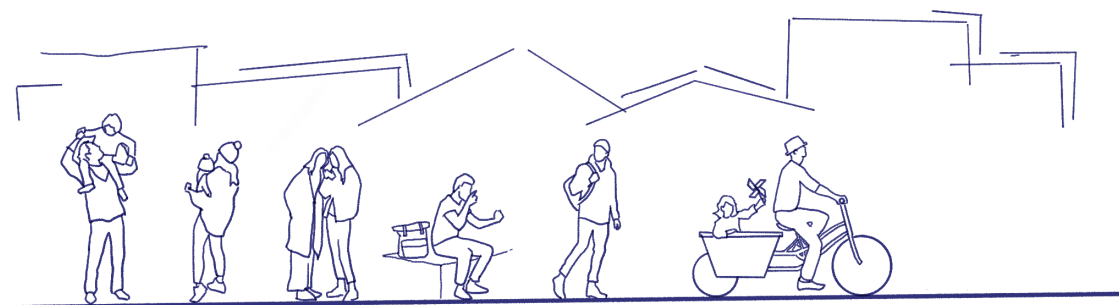
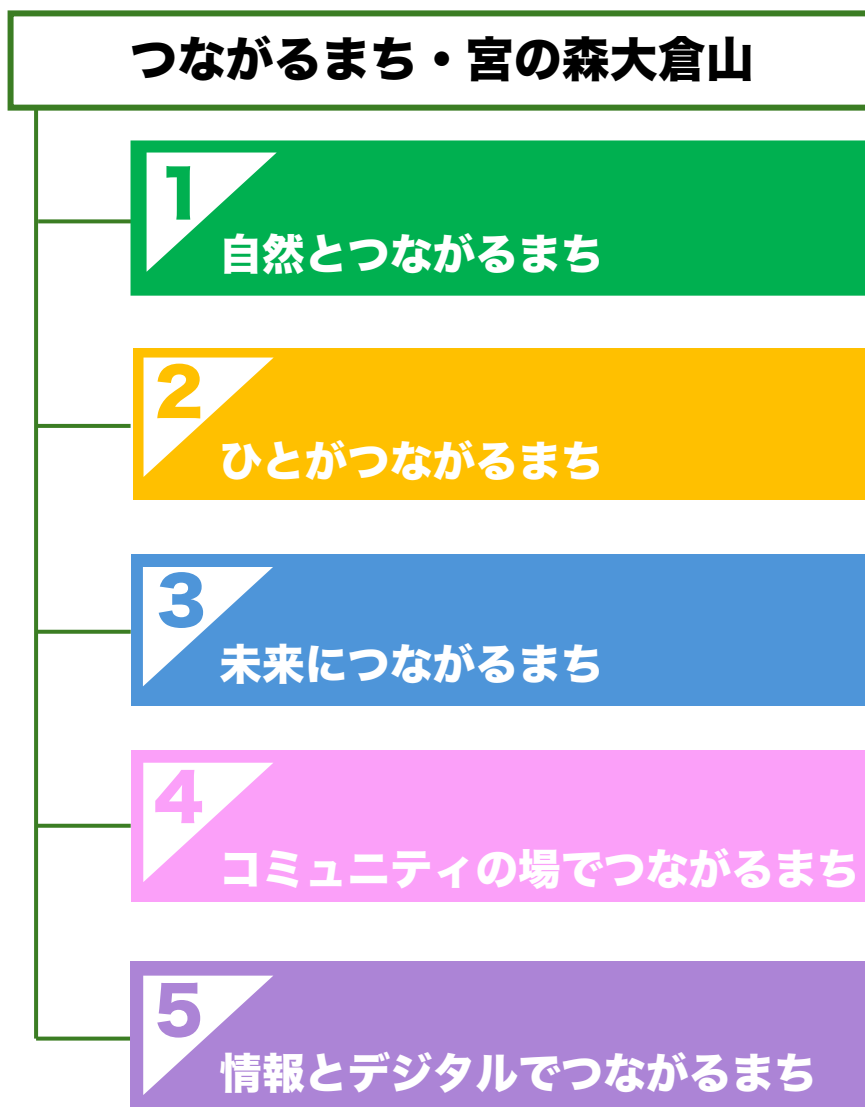
宮の森大倉山地区の魅力としては、「自然とのつながりがある」、「近隣の助け合いなどの人とのつながりがある」、「未来を担う子どもたちを育むつながりがある」があげられています。

そして、地区の課題としては、「人とのつながりを多世代に広げる」、「つながりの場をつくる」、「デジタル・情報によるつながり」があげられました。

これらの魅力を生かし、課題を解決するために、これからの宮の森大倉山地区の活動においては「つながる」が重要なキーワードとなります。

4 宮の森大倉山地区のまちづくりの5つの方針

宮の森大倉山地区のまちづくり活動のテーマを実現するため、さらに細かく5つの方針を定めました。



5 5つの方針の実現に向けて

(1) 自然とつながるまち

宮の森大倉山地区は、都心に程近い場所に位置しながらも、円山公園や盤溪、三角山、大倉山などのみどりに囲まれた自然豊かなまちです。このことから、豊かなみどりのうるおいを感じる暮らしを守り、育むまちづくりが求められています。

今後のまちづくりでは、こうした自然を身近に感じるとともに、時にはその自然を楽しみ、そして大切にする気持ちを育むため、「散策会」などを行い、自然を楽しみながら住民同士の交流の機会を創出します。

自然とつながるまちを推進することで、豊かなみどりのうるおいがある暮らしを次の世代に引き継ぎ、みどりをきっかけとした交流が生まれるまちを目指します。

実現に向けた活動のイメージ

宮の森大倉山地区の豊かな自然を生かした環境教育や交流の機会の創出を進めます。

自然を身近に感じられるよう、円山公園や盤溪、三角山、大倉山の「散策会」などを開催します。こうした取り組みを通して、自然をテーマにしながら子どもから高齢者まで多世代が交流する機会をつくります。

自然とのつながりを子どものときから感じられるよう、宮の森大倉山地区をフィールドに子どもたちの環境教育などを行います。各町内会などで「花植え」や「植栽」などを行い、緑豊かなまちづくりを進めます。

花植えや植栽、ガーデニングなどをテーマに、住民同士の交流を盛んにします。



(2) ひとがつながるまち

宮の森大倉山地区は、近所のつながりや助け合いがあり、近隣住民同士のコミュニケーションのあるまちです。一方で、学生や子育て世代、単身者などの若い世代も参加しやすいまちづくりが求められています。

今後のまちづくりでは、多世代が気軽に地域活動に参加できるよう、各世代のニーズの把握や、実行委員会や共通の目的をもったチームをつくるなど、地域の活動に多くの人に参加できる環境を整えます。

ひとがつながるまちを推進することで、町内会だけでなく、社会福祉協議会やPTA、民間事業者など、さまざまな組織やグループが連携するとともに、防犯や災害対応、高齢者の見守りなどの安心で安全な暮らしのあるまちを目指します。

実現に向けた活動のイメージ

多世代が地域活動に参加し、地域が一体となれるよう、人のつながりが生まれる活動を進めます。

賃貸住宅などに住む一人暮らしの方や子育て世代が、参加したくなるような活動やイベントを増やします。加えて、これまで地域で継承してきた盆踊りなども大切にしながら実施していきます。

こうした活動やイベントの実施にあたっては、企画段階からの参画を広く呼びかけることで、住民のニーズに合った内容にするとともに、まちづくりの参加の機会となるようにします。

また、中学生・高校生が自分たちで地域活動の企画・運営を行うチームをつくるなど、まちづくり活動への参加の機会をつくります。

若い世代の参加の仕組みとしては、各町内会で「できるときにできることから参加すること」を基本にした仕組み＝コミュニティサポーター制度を整えます。コミュニティサポーター制度を取り入れることで、現在、まちづくり活動への参加の少ない若い世代が参画する入口の一つとしてもらいます。

社会福祉協議会やPTA、民間事業者など、さまざまな組織やグループが連携し、防犯や災害対応、見守りなどを行います。



(3) 未来につながるまち

宮の森大倉山地区は、地域全体で未来を担う子どもたちを見守り、支援する文化が根付いており、教育施設も充実していることから、子育て環境が整っているまちです。そのことから、子どもたちがまちに愛着をもち、活躍できるまちづくりが求められています。

今後のまちづくりでは、地域全体で子どもたちを見守る文化を、さらに高めるための多世代交流の機会を創出したり、子育て世代が抱える悩み・困りごとを解決するために、子育て世代同士のつながる機会を創出します。また、子どもたちが楽しくまちづくり活動に関わることができるようにします。

未来につながるまちを推進することで、子どもたちが主体的にまちづくりに関わり、活躍することができるまちを目指します。

実現に向けた活動のイメージ

子育てしやすい環境をつくり、子どもたちがまちづくりに関わることができるような活動を進めます。

子育て中の方が気軽にしゃべりや身近な相談ができる場と機会をつくります。子育て世代が集まる場には、高齢者や中学生、高校生が関わることができるようにします。

高齢者と子どもたちが一緒に遊んだり、高齢者や中学生、高校生が子どもたちに勉強や遊びなどを教えるような多世代交流の機会をつくります。また、子どもたちの習い事の発表の機会などをつくったり、町内会館などで、地域の人たちと子どもたちが一緒に食事をするコミュニティキッチンを開催するなど、地域全体で子どもたちの成長を見守ります。

さらに、子どもたちが楽しくまちづくり活動に参加できるように活動内容を工夫したり、子どもたちが気軽にボランティアに参加できるような仕組みをつくります。



(4) コミュニティの場でつながるまち

宮の森大倉山地区は、すでに近所のつながりや助け合いがある一方で、地域内に住民同士が集まり交流する場が少なく、町内会館などの利活用による交流の場づくりが求められています。

今後のまちづくりでは、住民が気軽に集い、交流できるコミュニティの場をつくることで、地域に関わる情報の共有や、住民同士が親しくなるきっかけとなる拠点づくりを行います。

コミュニティの場でつながるまちを推進することで、地域に新たに住み始めた若い世代やこれまで交流が少なかった方々が訪れ、そのつながりで地域の活動に参加する場やきっかけのあるまちを目指します。

実現に向けた活動のイメージ

住民が気軽に集まり、交流することができる場づくりを進めます。

地域にある町内会館を活かしたコミュニティの場をつくります。具体的には、町内会館に中学生や高校生が友達と一緒に勉強などができる自習室や社会人が仕事ができるコワーキングスペースを設けます。他にも、多世代が気軽に集うことができるコミュニティキッチンのような場づくりを行います。

また、町内会館が遠い地域の住民に対しては、地域内にあるカフェや飲食店などと連携して地域の人が歩いて気軽に集まることのできるコミュニティの場をつくります。

さらに、地域内にある公園などの公共空間を活かしたキッチンカーイベントやオープンカフェなどを開催し、交流の機会を設けます。公園のような開かれた場で活動を行うことで、より多くの方が参加しやすいコミュニティの場とします。



(5) 情報とデジタルでつながるまち

宮の森大倉山地区は、区域が広く、坂の多いまちであるため、アナログによる情報発信(特に回覧板)などでは情報の伝達が遅延してしまうことが懸念されています。

また、若い世代も多く住んでいることから、デジタルを活用して、多世代に情報が効果的に届くようなまちづくりが求められています。

今後のまちづくりでは、ホームページやSNSを活用した情報発信により、地域のイベントや町内会活動などの情報を得やすい環境を整えます。

情報とデジタルでつながるまちを推進することで、地域への関心が高まり、住民の連帯感や愛着が高まるとともに、賃貸住宅などに住む一人暮らしの方などにも地域の情報が届くようにすることで参加を促し、どの世代にも参加の機会があるまちを目指します。

実現に向けた活動のイメージ

デジタルを活用した情報発信により、より多くの住民にまちづくりの情報が届くような活動を進めます。

地域内の情報のプラットフォームとして、宮の森大倉山地区のホームページを制作します。また、ホームページに紐づいたSNS（LINE公式アカウント、Facebook、Instagramなど）を開設し、宮の森大倉山地区の日々の情報を発信します。中学生や高校生、若い世代にも地域の広報担当になってもらうなど、情報発信の体制をつくります。

コミュニティの場としての町内会館の利便性を高めるために、インターネットから会館の予約ができるようなシステムをつくります。

また、単位町内会のデジタル化を支援するために、各町内会でもSNSの活用やオンライン会議の導入に向けた、講習会などを開催します。

さらに、ホームページを活用して各町内会で活用する書類様式（フォーマット）などをダウンロードできるようにします。

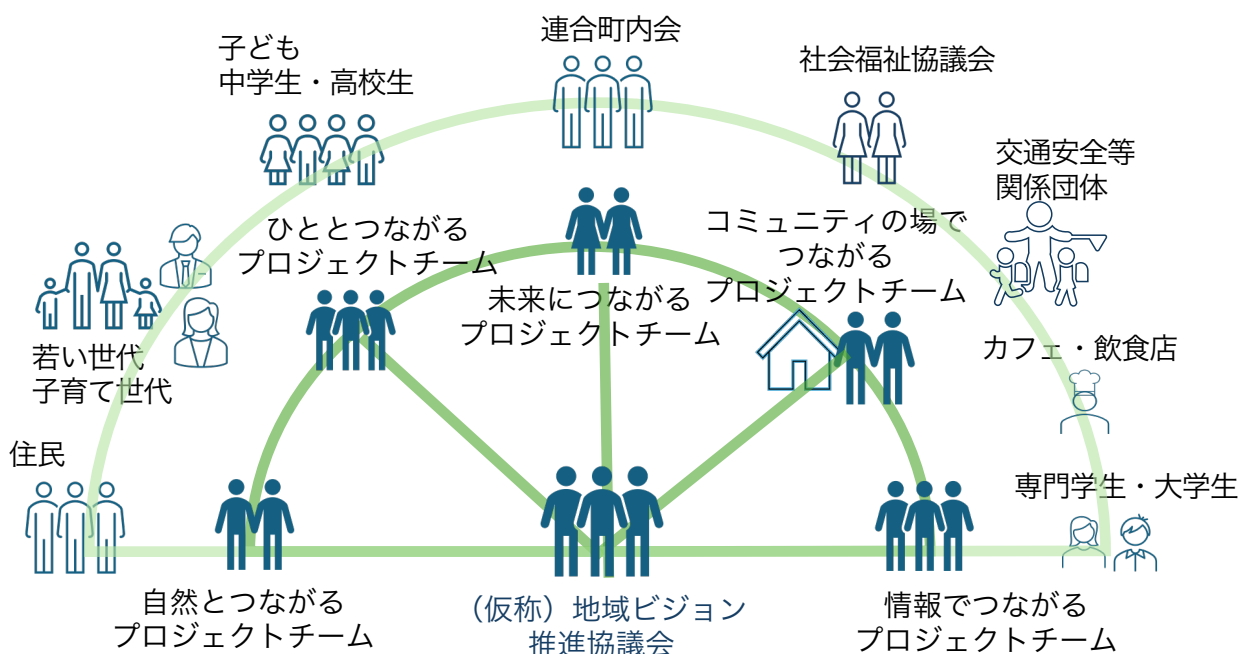


6 今後の展開

先に定めた5つのまちづくりの方針に基づき、連合町内会や諸団体による「（仮称）地域ビジョン推進協議会」を組織のうえ、具体的な活動や展開を検討し、関係者との連携体制を築きながらまちづくりを進めます。

また、町内会館の利活用の推進やホームページの制作とSNSでの情報発信などを先行して進めていきます。

ビジョン推進体制（イメージ）



先行プロジェクト

①町内会館の利活用促進

（コミュニティの場でつながるまちプロジェクト）

- ・ 町内会館の利活用を検討し、実験的な取組を進めていきます。

②ホームページの制作とSNSの活用促進

（情報とデジタルでつながるまちプロジェクト）

- ・ 宮の森大倉山地区のホームページを制作するとともに、SNSでの情報発信を行います。
- ・ 各町内会でのデジタル研修会（LINE・Zoom研修）なども行います。

宮の森大倉山地区まちづくりビジョン

作成：宮の森大倉山連合町内会

支援：札幌市中央区宮の森まちづくりセンター

中央区地域振興課

市民文化局市民自治推進課